

折に触れ 四字熟語

NO. 230 『春秋筆法』 しゅんじゅうのひっぽう

< 意味 > ちょっとした言葉遣いの中に、賞賛・批判や深い真意を暗に含めた表現方法。また、公正で厳しい批判の態度のこと。また、間接の原因を直接的な原因として表現する論法。論理に飛躍があるようにも見えるが、一面の真理をついているような論法。

孔子が書いたとされる『春^{しゅん}秋^{じゅう}』の簡潔な表現の中に、厳しい歴史批判が込められているところからいう。『春秋』は魯^ろの国の歴史書で、魯の史官が記したものに孔子が褒^{ほう}貶^{へん}の義を加えて筆削したものとされる。五経の一つ。

用 例 : つまり春秋の筆法をもってすると、今や全三井を支えているのは三井炭鉱であるといつてよかった。< 邦光史郎・三井王国 >

一 言 : NO. 229 に続いて半藤一利の著作の中で気になった四字熟語です。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」